

第2学年 国語科学習指導案

対象 2年7組 男17名, 女16名 計33名
指導者 赤井 洋平

- 1 単元名 『防災キャッチコピー』を提案しよう 魅力的な提案をしよう
教材名 魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする(光村図書 国語2)

2 単元について

(1) 生徒について

本単元に関わる、既習事項について事前アンケートを行ったところ、次のような結果となった。

学級の中で、発表したり、提案したりすることが得意だ。	得意	6% (33人中 2人)
	どちらかという得意	9% (33人中 3人)
	どちらかという苦手	61% (33人中 20人)
	苦手	24% (33人中 8人)
発表したり、提案したりするとき、どんなことに気を付けながら話しているか。	みんなに分かってもらえるように、大きな声で話す。 賛成してもらえそうな内容を考え、丁寧に説明する。 ゆっくりと丁寧に説明する。	
話すこと・聞くことの学習の印象・感想	他の人の発表を聞くのが面白い。 人前で話すのが苦手なので、あまり得意ではない。	

話すことの学習について、得意だと感じている生徒は少ない。また、発表する際に、声量や速度に着目をする生徒が多く、どのような展開で話すかという構成を考える生徒は、ほとんどいなかった。

以上のような点を受け、本単元では、自作の『防災キャッチコピー』を一般市民にプレゼンテーションするという言語活動を設定し、論理的な構成や展開を考えて話す力をつけさせたいと考え、この単元を設定した。

(2) 教材について

本単元に関わる既習事項は、「話すこと・聞くこと」の中学第1学年の指導事項イ「全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと」と同じく中学第1学年の指導事項ウ「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」である。具体的には、小学校6年生では、『今、私は、ぼくは』が取り上げられており、必要な資料を準備し、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことに取り組んできた。中学校に入学してからは、『『好きなもの』を紹介しよう ～スピーチをする～』では、話の構成や順序を工夫し、自分の伝えたいことを整理し、相手の反応を踏まえながら、声の大きさや話す速さなど、話し方を意識して紹介をした。また、『話題や方向を捉えて話し合おう ～グループ・ディスカッションをする～』では、日常生活の中から話題を決め、交流を通じて話し合いの材料を集めた。さらに、話し合いの話題や方向を捉えて、相手の反応を踏まえて話したり自分の考えをまとめたりしてきた。

本単元を中心とする指導事項として、「話すこと・聞くこと」の中学第2学年の指導事項イ「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと」を取り上げる。既習を踏まえ、論理的で分かりやすい話の構成や展開を工夫しながら、説得力のあるプレゼンテーションを作成させていきたい。また、3年時の、「自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、説得力のある話をする事」につなげていきたいと考えてこの単元を設定した。

(3) 指導について

本単元では、「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと」を学習のねらいとする。そのために、「プレゼンテーション」を言語活動として位置付ける。「プレゼンテーション」とは、「相手の理解や同意を得るために、自分の考えや調査したことなどを提示して、提案・説明すること」である。一般市民に向けてプレゼンテーションをするという場を想定することで、提案の目的や相手を明確にし、

生徒が必要感を感じるテーマを設けられるようにしたいと考えた。

単元の導入では、3つのキャッチコピーを提示する。そのキャッチコピーは、生徒の自作ではなく、予め準備したものとする。提示の後、一般市民に向けて、そのキャッチコピーをプレゼンテーションする言語活動を通して、資料となる材料を選び、論理的な構成や展開の仕方を考え、進行案を作成する。それぞれが説得力を持たせるために工夫した進行案や、補助的な資料の活用の仕方について振り返りを行うことで、本単元のねらいに迫らせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

論理的な構成や展開を考えて、プレゼンテーションを作成しようとしている。

(2) 話すこと・聞くこと

異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すことができる。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

音声言語としての話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。

4 指導と評価の計画

次	時	学習内容	国語への関心・意欲・態度	話す能力	言語についての知識・理解・技能
小6		意見文をもとに、資料を準備し、平和についてスピーチする。 【「平和」について考える】	資料を提示しながら自分の考えを説明しようとしている。	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら、話すことができる。	話し言葉と書き言葉の違いに気づき、相手や場によって使い分けている。
一	1	プレゼンテーションの目的を理解し、学習の見通しを持つ。	学習計画を立て、見通しを持つようとしている。	相手や目的を意識し、必要な情報を考えることができる。	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。
二	2	プレゼンテーションの資料となる材料を収集する。	プレゼンテーションの資料となる材料を集めようとしている。	聞き手の知りたいことを想定しながら情報を集めることができる。	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。
	3 【本時】	論理的な構成や展開について考え、材料を整理して、進行案を作成する。	プレゼンテーションの進行案を作成しようとしている。	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、論理的な構成や展開を考えることができる。	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。
	4	フリップボードを作成し、リハーサルを行う。	プレゼンテーションのフリップボードを作成しようとしている。	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、論理的な構成や展開を考えることができる。	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。
三	5	プレゼンテーションの発表会と振り返りを行う。	プレゼンテーションを行い、発表について振り返りをしようとしている。	論理的な構成や展開を考えて話すことができる。	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。
中3		体験や知識を整理し、相手や目的を意識して話す。 【社会との関わりを伝えよう】	社会生活から話題を決め、説得力をもったスピーチをしようとしている。	社会生活から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、説得力のある話をするることができる。	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら敬語を適切に使うことができる。

5 本時の指導

(1) 目標

異なる立場や考えを想定しながら、聞き手を説得するために論理的な構成や展開を考えることができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	プレゼンテーションの進行案を作成しようとしている。
話す能力	主張を支える根拠を意図的、効果的に配置しながら進行案を作成することができる。
言語についての知識・理解・技能	話し言葉の特色や役割を理解し、聞き手、目的などを考えながら適切に使うことができる。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 3分	1 前時の想起	<ul style="list-style-type: none"> ● プレゼンテーションの目的の確認 ● 資料集めの進行状況の確認
	2 課題の確認 聞き手の理解や同意を得るためのプレゼンテーションは、どうあればよいかを考え、進行案を作ろう。	
展開 4分	3 課題の解決 (1) モデルを分析する。 ・モデルの不十分な点を指摘し、改善点を考える。 (2) 進行案を個別で練る。 ・根拠として2つ以上の新聞記事を用いる。 (3) グループごとに、進行案を交流する。 (4) 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 構成に視点を絞って、モデルを分析させる。 ● 選んだキャッチコピーを、どのような形で支えるのかをヒントに与えながら考えさせる。 ◎ プレゼンテーションの進行案を作成しようとしている。(観察) ◎ 主張を支える根拠を意図的、効果的に配置し、説得力のある進行案を作成することができる。(ワークシート) ● 根拠となる記事をどのような意図で配置したのかを、発表させる。
	4 まとめ 聞き手の理解や同意を得るためのプレゼンテーションは、聞き手を説得するために論理的な展開が必要である。私は、自分の選んだ防災キャッチコピーを提示した後に、○○についての新聞記事を挙げる。その後に、○○についての新聞記事で、災害がより身近なものであることを伝える。そうすることで、聞き手に対して説得力を持たせたいと思う。	

終末 5分	5 振り返り	● 隣の席同士で発表させる。
	<p>【振り返り 例】 太字は書き出し 私の進行案の完成度は、_____%である。キャッチコピーに説得力を持たせるために、2つの新聞記事を選ぶことができたからだ。さらに、〇〇についての情報を提供することができれば、もっと良いプレゼンテーションになると思う。</p>	
	6 次時の確認	

(4) 板書計画

